

公益社団法人 日本水産学会
平成 24 年度第 5 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 24 年 9 月 14 日(金) 10 時～15 時
- 2 開催された場所 独立行政法人水産大学校 国際交流会館 2 階大研修室
(山口県下関市永田本町 2-7-1)
- 3 理事総数及び定足数
総数 17 名、定足数 9 名
- 4 出席理事数 16 名
(本人出席) 江口 充、金子豊二、黒倉 壽、小谷祐一、桜井泰憲、嵯峨直恆、佐藤秀一、
佐藤 實、東海 正、松山倫也、鷲尾圭司、和田時夫、渡邊良朗、渡部終五
(途中退席) 河原栄二郎(第 14 号議案審議終了後の 11 時 50 分退出)、
鈴木伸洋(第 14 号議案審議終了後の 11 時 50 分退出)
(監事出席) 瀬川 進
(幹事出席) 舞田正志、石崎松一郎、宮本佳則、高井則之、内田圭一、大迫一史
(オブザーバー) 大越和加(理事候補者)、佐竹幹雄(理事候補者)、皆川 恵(理事候補者)
- 5 議 案
決議事項 第 1 号議案 「平成 24 年度編集委員会委員及び幹事の交代」の件
第 2 号議案 「平成 24 年度水産利用懇話会委員会委員の交代」の件
第 3 号議案 「平成 24 年度水産教育推進委員会委員の交代」の件
第 4 号議案 「平成 24 年度水産政策委員会委員の選出」の件
第 5 号議案 「学会賞選考委員選出のための研究分野及び委員構成等の見直し」
の件
第 6 号議案 「平成 25 年度春季大会委託運営業者」の件
第 7 号議案 「平成 25 年度春季大会募金目論見書」の件
第 8 号議案 「平成 25 年度春季大会高校生ポスター発表にスポンサーを付ける」の
件
第 9 号議案 「平成 26 年度春季大会担当支部」の件
第 10 号議案 「平成 26 年度秋季大会担当支部」の件
第 11 号議案 「ベルソープックスシリーズの出版契約の見直し」の件
第 12 号議案 「日本水産学会 80 周年」の件
第 13 号議案 「男女共同参画学協会連絡会第 3 回大規模アンケートの協力」の件

第 14 号議案 「平成 25 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)『学術定期
刊行物』の申請に向けての対応」の件

第 15 号議案 「来年度以降の『海とさかな』コンクールへの対応」の件

第 16 号議案 「協賛及び後援」の件

第 17 号議案 「入会承認」の件

第 18 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 平成 24 年度日本水産学会秋季大会の開催
平成 24・25 年度会長指名理事候補者の諾否結果
資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について
平成 24・25 年度支部幹事の変更
寄附金について
平成 23 年度科学研究補助金(研究成果公開促進費)「学術定期刊行物」確定額
の通知について
2013 年度 Fisheries Science(79 巻)のカバーページの候補写真 6 枚を選定につ
いて
科研費細目変更に伴う掲載分野の見直しについて
Fisheries Science における特集記事 Special feature 掲載手続について
2011 年の Fisheries Science インパクトファクター
Fisheries Science における剽窃検知ツールの導入
同等寄与の表示
J-Stage 上における日水誌の電子付録の導入
各種委員会及び支部報告
平成 24 年度東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)
水産科学連合(仮称)の設立準備について
その他

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で佐藤(秀)総務担当理事が定足数の充足を確認し、続いて、同理事から本会議の
議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移
った。なお、審議に先立ち、理事候補者である大越和加会員、佐竹幹雄会員及び皆川 恵
会員の紹介があった。

(決議事項)

第1号議案「平成24年度編集委員会委員及び幹事の交代」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、平成24年度編集委員会委員及び幹事の交代について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下の原案通り可決した。

委員 [辞退]多田 稔 [選出]有路昌彦

幹事 [辞退]近藤秀裕 [選出]二見邦彦

第2号議案「平成24年度水産利用懇話会委員会委員の交代」の件

佐藤(秀)総務担当理事から同議案について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下の原案通り可決した。

[辞退]野沢隆志 [選出]瓜生 登

[辞退]岡田 茂 [選出]潮 秀樹

第3号議案「平成24年度水産教育推進委員会委員の交代」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、同議案について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下の原案通り可決した。

[辞退]神原 淳 [選出]古丸 明

第4号議案「平成24年度水産政策委員会委員の選出」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、同議案について木村郁夫会員を選出したい旨説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第5号議案「学会賞選考委員選出のための研究分野及び委員構成等の見直し」の件

佐藤(實)学会賞担当理事から同議案について、学会賞選考委員会で検討された研究分野の見直し案について、科研費細目の変更に対応した4分野(「水圏生産科学 A」(環境・生物・生態系など)、「水圏生産科学 B」(漁業・資源・増養殖・経済など)、「水圏生命科学」(水産化学・生化学・生理・食品など)及び「その他(分野横断)」)とし、各分野に配分する委員数は、「水圏生産科学 A」4名、「水圏生産科学 B」4名、「水圏生命科学」4名及び「その他(分野横断)」3名とする原案が説明された。

本議案について以下の質疑があった。

佐藤(秀)理事「最近2年間に学会誌に掲載されたすべての論文の内容を科研費細目の3分野に振り分けてその比率を算出したとあるが、2年間のみのデータでは分野の比率を正確に判断できないのではないか。」

佐藤(實)理事「今回は調査した2年間のデータで、科研費細目4分野が均等になるよう振り分けた。今後のさらなる改正に向けてはデータ数を増やしてより正確に比率

を算出していく必要がある。」

渡部会長 「分野によっては必ずしも学会誌 (Fisheries Science、日本水産学会誌) に発表せず他のジャーナルに発表するものもあるので、今回の議論の基礎となった 2 年間における学会誌 (Fisheries Science、日本水産学会誌) への発表内容だけでは分野の比率を適切に反映しているとはいえないと考えられる。しかしながら、暫定的には本案で 2 年間試行し、その間データを蓄積して必要ならば改正することにしてはどうか。」

渡部会長 「2 年後の改正に向けて研究分野及び委員構成を検討する作業部会を設置してはどうか。その場合、構成員は佐藤 (實) 学会賞担当理事、渡邊学会賞担当理事、桜井理事、佐藤 (秀) 総務担当理事及び東海総務担当理事とし、桜井理事が部会長を務めるのが適切ではないかと考える。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。併せて、学会賞選考委員選出にかかる作業部会を設置することが可決された。

これを受けて、学会賞授賞規程を一部改正する案が示され、一部修正の上、出席理事全員一致で可決した (別紙 1)。

第 6 号議案「平成 25 年度春季大会委託運営業者」の件

黒倉関東支部担当理事から、平成 25 年度春季大会委託運営業者について、数社の見積もりを検討した結果、トーヨー企画 (株) に決定したいとの説明があり、審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。

第 7 号議案「平成 25 年度春季大会募金目論見書」の件

黒倉関東支部担当理事から、平成 25 年度春季大会募金目論見書案について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。

第 8 号議案「平成 25 年度春季大会高校生ポスター発表にスポンサーを付ける」の件

黒倉関東支部担当理事から、平成 25 年度春季大会開催時における高校生ポスター発表にスポンサーを付けることについて提案があり、審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。

第 9 号議案「平成 26 年度春季大会担当支部」の件

佐藤 (秀) 総務担当理事から、平成 24 年度第 4 回理事会において継続審議事項とされた平成 26 年度春季大会担当支部は、北海道支部としたい旨提案があり、審議の結果、同支部が担当することを出席理事全員一致で可決した。

第 10 号議案「平成 26 年度秋季大会担当支部」の件

佐藤 (秀) 総務担当理事から、平成 24 年度第 4 回理事会において継続審議事項とされた平成 26 年度秋季大会担当支部は、九州支部としたい旨提案があり、審議の結果、出席

理事全員一致でこれを可決した。

第 11 号議案 「ベルソープックスシリーズの出版契約の見直し」の件

東海ベルソープックス担当理事から、ベルソープックスシリーズ 1～31 巻の著者への割引率を現行の 20% から 10% に変更したいとの提案が(株)成山堂書店から申し入れがあり、ベルソープックス委員会としては(株)成山堂書店が該当する著者から了解を得るならば、学会との契約の変更を行うことを認めると判断した旨説明があった。

同議案に関して、次の意見及び質疑があった。

渡部会長 「全著者の了解はすべて(株)成山堂書店が行うのか。著者が拒否した場合はどうするのか。」

東海理事 「(株)成山堂書店がすべて行う予定であり、著者が拒否した場合でも学会が仲裁に乗り出すことはない。なお、これに関連して、最近ベルソープックスの企画が停滞しており、今後企画の提案の仕方についても検討する必要がある。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案を可決した。

第 12 号議案 「日本水産学会 80 周年」の件

渡部会長から同議案について、日本水産学会 80 周年の記念事業として水産学用語集のデジタル化を検討している旨説明があった。さらに、金子出版担当理事から、出版委員会で検討した結果、水産学用語集の再編集及びデジタル化には最低でも 2 年を要するため、80 周年ではなく 85 周年の記念事業として行う方が良いとの結論に達したとの補足説明があった。

同議案に関して、次の意見及び質疑があった。

渡部会長 「85 周年の記念事業としてはアジア水産学会の開催を検討している。」

黒倉理事 「現在 2017 年秋の開催を目指してアジア水産学会事務局に打診している。」

渡部会長 「80 周年事業に関しては、25 年度春季大会においてアメリカ水産学会の関係者に記念講演をお願いしてはどうか。さらに、過去 10 年間の学会活動の資料集を作成し、日本水産学会誌の巻末に掲載することも考えられる。」

黒倉理事 「記念講演のみであれば対応は可能である。」

和田理事 「太平洋沿岸における震災ゴミの状況なども一つのテーマになるのではないか。」

審議の結果、80 周年記念事業として、学会誌に掲載するか、別冊子にして過去 10 年間の学会年史を作成すること及び 25 年度春季大会時に日米合同記念シンポジウムを開催することを出席理事全員一致で可決した。

第 13 号議案 「男女共同参画学協会連絡会第 3 回大規模アンケートの協力」の件

佐藤(秀)総務担当理事から同議案について、男女共同参画学協会連絡会第 3 回大規

模アンケートへの協力依頼があった旨説明があった。

同議案に関して、次の意見及び質疑があった。

小谷理事 「データの提供は行わないとあるが、学会としてデータを受け取れないのか」

佐藤(秀)理事 「アンケートの集計結果は送られてくると、当該学協会所属の回答者については詳細なデータを受け取ることができる」

審議の結果、学会としてアンケートに参加協力することを出席理事全員一致で可決した。

第 14 号議案 「平成 25 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)『学術定期刊行物』の申請に向けての対応」の件

佐藤(秀)編集担当理事から本議案について、平成 25 年度科学研究費補助金国際情報発信強化(B)(応募総額 100 万円以上 2,000 万円未満)に年間 300 万円程度の予算申請を行なう予定であり、取組内容としては FS 誌における特集記事の掲載及び英文原稿の校閲、国際共同シンポジウム開催時における学会誌のプロモーション活動及び FS 誌のオープンアクセス化を検討している旨説明があった。

同議案に関して、次の意見及び質疑があった。

渡部会長 「現在水研連の再立ち上げを検討しているところであるが、その場合水研連として申請することはできるのか。」

東海理事 「基本的には申請は可能であると思われるが、申請はいずれかの学会が代表して行わなければならない。」

黒倉理事 「オープンアクセス化によるメリットは何か。」

東海理事 「インパクトファクターの増加が考えられる。」

審議の結果、出席理事全員一致で平成 25 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)『学術定期刊行物』の申請を行うことを可決した。

第 15 号議案 「来年度以降の『海とさかな』コンクールへの対応」の件

東海総務担当理事から、平成 24 年度『海とさかな』のコンクールへの学会の協力事業について、昨年度と今年度の依頼内容が異なっており、特に今年度は学会への経費を含めた負担が増加していること、依頼元である朝日学生新聞社と学会の間には本件に関する正式な取り決めが交わされていないことから、次年度の協力については朝日学生新聞社と事前に議論する方針であるとの説明があった。

本議案に関して、次の意見及び質疑応答があった。

和田理事 「水産総合研究センターでも体験学習ツアーを行なっているが、学会としては朝日学生新聞社とよく調整して会員の負担が増大しない方向で協力していく方がよい。」

東海理事 「学会は施設を有していないので、体験学習ツアーを行う場合は学会員の所属機関にあらためてお願いする必要があり、若干負担が大きくなる。しかし、出張講義は学会へのメリットが大きいと考えられるので、できることとできないことを明確にして対応したい。」

佐竹理事候補者 「日本水産株式会社がスポンサーになっているが、子供たちのユニークな発想があり、企画としては大変結構なことであると考えられる。したがって、学会としても支援することは有意義であると思われる。」

桜井理事 「出張講義については支部との係わりが大きくなると思われるので、支部との調整も必要である。」

東海理事 「現状ではまだ次年度の協力体制を協議していないので、ある程度協議が進行したのち、しかるべき委員会で対応するべきであると考えている。」

渡部会長 「学会の公益事業の一環として、本事業への協力は必要であると考えているので、引き続き前向きに検討していただきたい。」

以上の質疑応答を踏まえ、総務担当理事と庶務幹事が朝日学生新聞社との間で次年度の協力体制について協議することとした。

第 16 号議案 「協賛及び後援」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、協賛希望 6 件及び後援希望 1 件について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で以下の協賛及び後援を可決した。

協賛： 第 26 回キッチン・キトサンシンポジウム

主催 日本キッチン・キトサン学会

共催 日本化学会、日本生化学会、協賛 日本農芸化学会 他 11 学研究会

日程 平成 24 年 7 月 12 日(木)・13 日(金)

場所 北海道大学学術交流会館(北海道札幌市)

負担金 なし

特別セミナー「地震と掘削科学」

主催 東京海洋大学産学地域連携推進機構

共催 IODP-MI(統合国際深海掘削計画)

協賛 日本船舶海洋工学会 他 1 学会

日程 平成 24 年 9 月 6 日(木)

場所 東京海洋大学品川キャンパス白鷹館(東京都港区)

負担金 なし

2012 年度日本冷凍空調学会年次大会

主催 日本冷凍空調学会

日程 平成 24 年 9 月 12 日(水)～14 日(金)

場所 北海道工業大(北海道札幌市)

負担金 なし

第 50 回海中海底工学フォーラム

主催 海中海底工学フォーラム運営委員会

共催 生産技術研究奨励会

協賛 日本船舶海洋工学会 他 6 団体

日程 平成 24 年 10 月 5 日(金)

場所 東京大学大気海洋研究所講堂(千葉県柏市)

負担金 なし

第 12 回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油化学会

協賛 日本農芸化学会 他 4 学会

日程 平成 24 年 11 月 26 日(月)・27 日(火)

場所 油脂工業会館(東京都中央区)

負担金 なし

Symposium on Underwater Technology 2013

主催 東京大学生産技術研究所、東京大学地震研究所、IEEE/OES Japan
Chapter、海洋研究開発機構

協賛 土木学会 他 9 団体(予定)

日程 平成 25 年 3 月 5 日(火)～8 日(金)

場所 東京大学生産技術研究所駒場リサーチキャンパス会議棟(東京都目黒
区)

負担金 なし

後援: 学術フォーラム「東日本大震災がもたらした食料問題を考える」

主催 日本学術会議・東日本大震災に係る食料問題分科会

共催 日本学術会議水産学分科会、農業経済学分科会、農業情報システム学
分科会、農芸化学分科会

後援 日本農学アカデミー 他 4 団体

日程 平成 24 年 11 月 21 日(水)

場所 日本学術会議講堂(東京都中央区)

負担金 なし

第 17 号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第 18 号議案「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

(報告事項)

平成 24 年度日本水産学会秋季大会の開催

平成 24 年度日本水産学会秋季大会実行委員長である山元憲一会員から、秋季大会の参加者は約 700 名、演題数は 525 題であるとの報告があった。

平成 24・25 年度会長指名理事候補者の諾否結果

佐藤(秀)総務担当理事から、平成 24・25 年度会長指名理事候補者の諾否結果が以下のとおり報告された。

[支部幹事 164 名のうち 131 名から回答]

理事候補者	諾	否	無効
大越 和加	127	2	2
皆川 恵	128	1	2
佐竹 幹雄	127	2	2

資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について

佐藤(秀)総務担当理事から、広瀬美由紀氏(正会員,平成 23 年度資格喪失)及び KIM, WAN-SOO 氏(外国会員,平成 20 年度除名)の 2 名が会費納入により退会者に変更されたことが報告された。

平成 24・25 年度支部幹事の変更

佐藤(秀)総務担当理事から、所属支部の変更にともない北海道支部の支部幹事を谷津明彦会員から渡邊研一会員に変更することが報告された。

寄附金について

佐藤(實)財務担当理事から、竹内俊郎会員及び岡本信明会員より各 50,000 円の寄附金をそれぞれ平成 24 年 7 月 2 日付および平成 24 年 8 月 10 日付で受け入れたことが報告された。

平成 23 年度科学研究補助金(研究成果公開促進費)「学術定期刊行物」確定額の通知について

佐藤(實)財務担当理事から、平成 23 年度科学研究補助金(研究成果公開促進費)「学術定期刊行物」確定額が 4,100,000 円であったことが報告された。

2013 年度 Fisheries Science(79 巻)のカバーページの候補写真 6 枚を選定について

佐藤(秀)編集担当理事から 2013 年度 Fisheries Science(79 巻)のカバーページの候補

写真 6 枚の選定結果について以下のとおり報告があった。

「九州西方海域を漁場とする 19 トン近海かつお 1 本釣り漁船があげたカツオ」	黒坂浩平(水研セ開発調査セ)
「信楽焼の器に盛り付けられたふなずし」	菅原和宏(滋賀県立琵琶湖博物館)
「遊泳するウナギ葉形仔魚」	山田祥朗(株いらご研)
「ニジマスの孵化仔魚」	吉崎悟朗(海洋大)
「ヤマメ幼魚」	吉崎悟朗(海洋大)
「クロダイ 21 歳魚(全長 440mm)の耳石」	片山知史(東北大)

科研費細目変更に伴う掲載分野の見直しについて

佐藤(秀)編集担当理事から、現在継続して科研費細目変更に伴う掲載分野の見直し作業を行なっていることが報告された。

Fisheries Science における特集記事 Special feature 掲載手続について

佐藤(秀)編集担当理事から、Fisheries Science における特集記事 Special feature の掲載手続を行なっている旨報告された。

2011 年の Fisheries Science インパクトファクター

佐藤(秀)編集担当理事から 2011 年の Fisheries Science インパクトファクターは 0.937 であることが報告された。

Fisheries Science における剽窃検知ツールの導入

佐藤(秀)編集担当理事から Fisheries Science において剽窃検知ツールを導入した旨報告があった。

同等寄与の表示

佐藤(秀)編集担当理事から、Fisheries Science 誌において、これまで認めていなかった著者の同等寄与の表示を行う旨報告があった。

同報告に関して、次の質疑応答があった。

渡部会長 「Corresponding author が複数名存在する場合はどうするのか。」

東海理事 「Corresponding author に関しては現在継続審議中である。」

J-Stage 上における日水誌の電子付録の導入

佐藤(秀)編集担当理事から、J-Stage 上において日水誌の電子付録のシステムを導入し、動画等も掲載できるようにすることが報告された。

第 4 回理事会以降の職務執行の状況

・企画広報関連

東海企画広報担当理事から日本水産学会誌における巻頭言の取扱いについて説明があり、次年度 1 号から掲載を行ない、渡部会長を始め各理事にもお願いすることになるとの

ことである。

・ベルソープックス関連

東海ベルソープックス担当理事から、ベルソープックス 040 として「どんな魚がうまいか」(坂口守彦 著)が平成 24 年 9 月 8 日に刊行されたことが報告された。

・水産技術誌関連

和田水産技術誌担当理事から水産技術誌についての報告があった。報告によると、水産技術誌第 5 巻 1 巻の刊行は 9 月になるとのことである。第 5 巻 2 号については現在 14 報を受付済みであり、うち 5 報が査読終了、残り 9 報が査読中とのことで、最終的には平成 25 年 1 月に刊行される予定である。なお、監修委員会では和文誌との差別化を含め水産技術誌の内容を目下検討中とのことである。

・学会賞関連

佐藤(實)学会賞担当理事から第 11 回農学進歩賞に岩田容子会員(東京大学大気海洋研究所)を推薦した旨報告があった。

・シンポジウム企画委員会関連

渡邊シンポジウム担当理事から来春の大会におけるシンポジウムについては本大会中に開催される委員会で決定されることが報告された。

・出版関連

金子出版担当理事から水産学シリーズ 173 および 174 が 9 月下旬に刊行予定であることが報告された。なお、水産学シリーズの企画に関して、シンポジウムの開催後に可否を判断してはどうかとの意見があり、現在検討中である旨合わせて報告があった。

・国際交流関連

佐藤(秀)理事から 8 月 19 日から開催された第 132 回アメリカ水産学会に佐藤(秀)理事が国際交流委員長として学会を代表して出席し、総会において日本水産学会の震災・復興への対応状況を報告したこと、11 月 16 日に開催される第 2 回日韓合同シンポジウムの演者が決定されたこと、及び第 1 回日中韓合同シンポジウムが来年 4 月 30 日に開催される旨の報告があった。

・水産教育関連

黒倉水産教育担当理事から、水産学教育推進委員会のあり方について新たに検討する時期にきているとの認識があり、今後議論することになっていることが報告された。

・水産政策関連

黒倉水産政策担当理事から水産政策委員会として今後行われる海洋基本計画に対するパブリックコメントを求められた場合の対応について検討中であることが報告された。

・漁業懇話会関連

渡邊漁業・資源管理担当理事から第 60 回漁業懇話会が本日開催中であることが報告された。

・水産利用懇話会関連

佐藤(實)水産利用担当理事から報告があり、今年度第 1 回委員会が 6 月 27 日に開催され、今年度の懇話会のテーマと方針について決定し、11 月 21 日に第 1 回講演会を開催するとのことである。

・水産増殖懇話会関連

佐藤(秀)水産増殖担当理事から、同懇話会の第 1 回講演会が 9 月 14 日に秋季大会の関連行事として開催されており、来年 2 月 9 日に第 2 回講演会が開催されることが報告された。

・水圏環境関連

鷺尾水圏環境担当理事から、水産環境保全委員会のシンポジウムが現在開催中であることが報告された。

・将来計画関連

和田将来計画担当理事から、震災対応を中心に学会のあり方について議論を重ねていくことにしているとの報告があった。

・支部関連

嵯峨理事(北海道支部担当)から、平成 24 年度支部大会を平成 24 年 12 月 14 日・15 日に東京農業大学網走キャンパスで行う旨の報告があった。

小谷理事(東北支部担当)から、支部大会を 11 月 2 日・3 日に青森県で開催することが報告された。

黒倉理事(関東支部担当)から、来春の平成 25 年度春季大会実行委員会で準備を行なっている旨報告があった。

江口理事(近畿支部担当)から、前期の例会をチリメンモンスターを題材にした講演・実習(255 名参加)として 7 月 28 日・29 日に近畿大学で実施したこと、後期の例会は学会形式の発表会を 12 月 1 日に開催する予定であるとの報告があった。

松山理事(九州支部担当)から、9 月 29 日に支部例会をシンポジウム形式で開催することが報告された。

平成 24 年度東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)について

渡部会長から、新たに設置した平成 24 年度東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)の検討状況が報告された。

水産科学連合(仮称)の設立準備について

渡部会長から、水産科学連合(仮称)の設立準備を行っており、竹内俊郎前会長、東

海理事及び石井学会事務局員にその協力を依頼していることが報告された。

その他

渡部会長より、韓国水産学会会長である南澤正 釜慶大学校教授が秋季大会に参加しているとの紹介があり、本理事会で同会長の挨拶が行われた。

渡部会長より、次回理事会は平成 24 年 12 月 15 日(土)13 時から、国立大学法人東京海洋大学で開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15 時、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成 24 年 9 月 14 日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監 事